

# 山口県建設技術センター

この情報誌は土木技術に関する様々な情報を山口県及び市町の土木技術職員の皆様方に提供するものです。

# 情報誌 Vol. 55

発行：一般財団法人 山口県建設技術センター 発行日：平成27年12月28日



災害査定臨場研修について

平成25年7月28日大雨災害の復旧状況について（阿武川、田万川、須佐川）

【センター業務紹介】技術相談について

編集後記

## 災害査定臨場研修について

災害復旧事業は、早期の復旧が求められるとともに、通常の事業とは異なる災害復旧独自の手法/手続きが必要となります。近年、山口県では平成21, 22, 25年と大規模災害に見舞われましたが、市町単位では数年～数十年の間発生しないこともあり、その技術が継承されにくくなっています。そのため、今後大規模な災害が発生した場合に、いかにして迅速かつ適切な対応を行うかが喫緊の課題となっています。

そのような中で、災害査定経験の少ない県・市町の職員を対象として、去る11月11日に「災害査定臨場研修」を開催しました。査定日程確定後の研修開催案内となることや、当初研修計画にはない研修であったにもかかわらず、県と市町合わせて26名の受講がありました。その研修状況についてご紹介します。

### ① 災害査定事前説明【座学】

- (1)災害復旧事業の基本
  - ・災害復旧とは何か？
  - ・査定とは何か？
- (2)研修箇所の申請内容
  - ・申請内容を事前にイメージ
  - ・現地での理解度向上



### ② 災害査定体験【実地研修】

- (1)災害査定を体験
  - ・査定の流れを体験
  - ・申請者の役割や内容を把握
  - ※実際の査定でのやり取りを間近で見ること、独特の雰囲気を感じることができる。



### ③ 質疑応答【実地研修】

- (1)査定への質疑応答
  - ・査定に関する講評
  - ・査定官、立会官に質疑
  - ・査定する側の考えを理解



### ④ 事後研修【座学】

- (1)査定を体験しての意見交換
  - ・査定時の良い点悪い点を講評
  - ・現場で聞き逃した質疑に回答



### 災害復旧事業に関する研修／講習会

#### 災害復旧基礎研修

主催：（一財）山口県建設技術センター  
対象：県・市町の新規採用職員等  
内容：災害復旧事務の流れ、計画と演習、現場測量実習  
設計書作成演習、模擬査定演習。。

#### 災害復旧実務講習会

主催：山口県砂防課  
対象：災害復旧事業に従事する県・市町職員  
内容：災害復旧事業の制度概要・事務手続き  
当該年度の災害査定方針、改良復旧事業、  
災害査定設計書作成における注意事項。。

- ・これらの研修・講習会は、室内での聴講を基本とした『座学』がメイン。
- ・災害査定の理解を深めるには『**実地研修**』が不可欠。



#### 災害査定臨場研修

主催：（一財）山口県建設技術センター  
対象：災害復旧事業の経験に乏しい県・市町職員  
内容：災害査定の基礎、災害査定体験  
質疑応答、事後研修

- ・『座学』に加え『**実地研修**』を交えることで、災害査定独特の雰囲気を感じることができる。
- ・自らが受検する際のシミュレーションができる

### アンケートに寄せられたご意見

- ・少し難しかったです、イメージがつかめました。
- ・現場で査定官、立会官の話が聞けて良かった。
- ・根拠を示すことが重要だと感じた。
- ・再説明の結果がどうなったかを知りたい。
- ・市町職員が申請するような査定も見てみたい。。。

被災後2か月以内に災害査定を実施するという「2か月査定」が推奨されているように、災害復旧事業は早期復旧の観点から時間との勝負という側面があります。このことから、事業期間の長い他事業に比べると、災害復旧事業は、事業着手から予算要望、工事着手、完成まで一連で携わることができる事業と言えます。

経験の浅い職員にとっては、災害復旧事業を経験することでこれま

であやふやだった事柄がより鮮明に見えてくるものと思われま

す。次年度以降も土木建築事務所や砂防課災害復旧班の協力が得られれば、実施していこうと考えておりますので、ぜひ受講をご検討ください。

今回研修にご協力いただいた長門土木建築事務所と山口県砂防課の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 平成25年7月28日大雨災害の復旧状況について

平成25年7月28日に県北部を襲ったこれまでに経験のない大雨では、萩市や山口市で甚大な被害が発生しました。道路や河川等の公共土木施設のみならず、JR橋の流失等による被害は記憶に新しいところと思われます。発災直後から現地確認や情報収集にあたり、また災害査定やその後の発注作業の応援に従事された職員の方も多いのではないのでしょうか。発災から2年が経過し、被災箇所の復旧は約86%が完了しています。(砂防課HP参照(平成27年11月末現在))

山口県では特に河川護岸等の被害が著しかった阿武川水系、田万川水系、須佐川水系においては、原形復旧を基本とした災害復旧事業だけでなく、大規模な河川改修に着手しています。(一財)山口県建設技術センターでは、これらの事業に関する設計書作成業務等で支援しています。これらの水系の改修状況についてご紹介いたします。

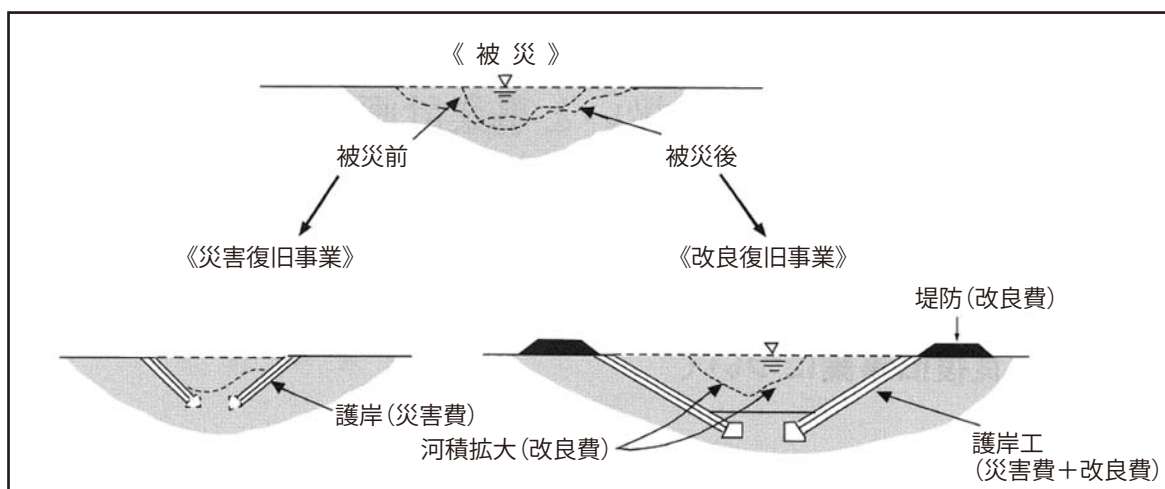


河川名	浸水家屋数(戸)		雨量(mm)		備考	
	床上	床下	合計	累計 最大1時間		
阿武川水系	64	19	83	378	89.6	JR山口線 第4,5,6阿武川橋りょう流失
田万川水系	205	75	280	351	138.5	特別養護老人ホーム 「阿北苑」孤立
須佐川水系	349	128	477	470	92.0	JR山陰本線 須佐橋りょう損傷

### 改良復旧事業とは

通常実施される災害復旧工事は「原形復旧」を原則とするため、被害が激甚な場合、その効果が限定されることが多々あります。このような場合、未被災箇所も含めた一連区間で再度災害防止と安全度の向上を図るために、一定計画等に基づく改良復旧制度が整えられてきました。

平成25年に被災した阿武川水系、田万川水系、須佐川水系では、この制度の内、「河川等災害関連事業」や「災害復旧助成事業」が採択されました。



改良復旧事業のイメージ 災害復旧事務の手引き(平成25年3月 山口県)から抜粋

### 河川等災害関連事業

県及び市町が施行する工事が対象で、河川や海岸だけでなく、道路や橋梁、急傾斜等に関する災害でも採択される事業です。

総工事費のうち関連事業費の占める割合が原則として5割以下のものであり、一か所の関連事業費が都道府県では240万円以上、市町は180万円以上のものが対象となります。河川・海岸事業で関連事業費が600万円を超えるものは、災害復旧助成事業として取り扱われます。

平成25年度の豪雨災害では、阿武川、原中川・大江後川、須佐川・唐津川で採択されました。

### 災害復旧助成事業

県が施行する河川及び海岸工事が対象となる事業で、道路・橋梁・砂防等は対象外です。

総工事費のうち助成事業費の占める割合が原則として5割以下のものであり、助成事業費が600万円を超えるもので、助成事業費による効果が大きいと判断されるものが対象となります。

平成25年度の豪雨災害では、田万川で採択されました。

## 復旧状況

それぞれの河川の被害状況やその特性から進捗は異なりますが、被災から2年が経過し、現地では復旧が進められています。



## 田万川



## 須佐川



## 阿武川

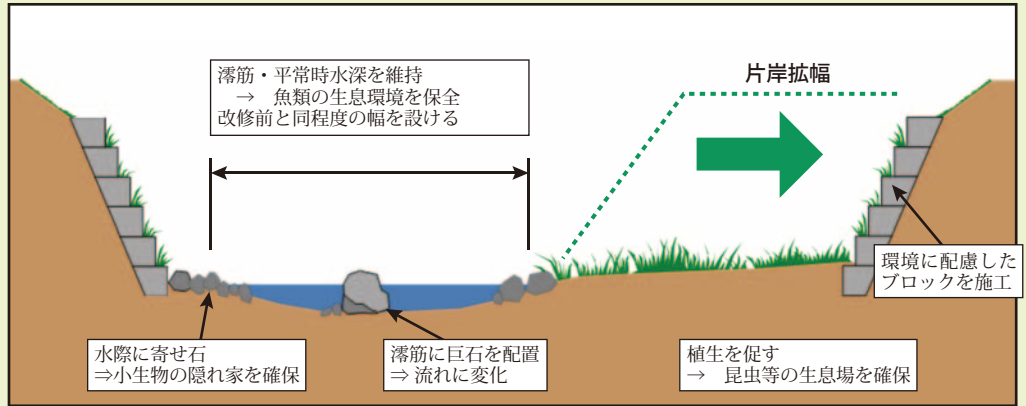


## 環境面の配慮

今回紹介する河川では大規模な改修を伴うため、川幅の拡幅や河道掘削等により河川環境が大きく変化することが懸念されました。このためさまざまな環境対策が検討・実施されています。この中から、阿武川で実施された環境対策についてご紹介します。

### 河道拡幅部の護岸整備

河川改修に伴い、広いところでは川幅を約2倍に拡幅しています。拡幅部は可能であれば片岸拡幅とし、滞筋・平常時の水深の維持、水際に寄せ石を行う等、魚類の生息環境を保全しています。



### 固定堰の改修

災害関連事業区間にある取水施設を兼ねた落差工です。落差が大きく魚類の遡上には不向きな施設となっていました。河川改修に伴い、当該箇所を拡幅する必要が生じましたが、拡幅部は現地の岩盤を最大限活用し、勾配を緩やかにとるとともに、様々な流れを創出しました。これにより、生物が流れを選択して遡上できる堰へと改修を行いました。



## 【センター業務紹介】技術相談について

平成26年7月に「公共工事の品質確保の促進に関する法律」（品確法）が改正されるなど、発注者の責務が明確化されるとともに（一財）山口県建設技術センターでは、建設技術についてのご相談を受け付けています。直接お電話いただいても対応できますが、ホームページからも質問を受け付けておりますので、是非ご活用ください。



### 例えば以下のような疑問点など

- ・設計成果を基準に照らしてチェックしたい。
- ・各種の構造計算が適用基準に適合しているかどうか知りたい
- ・関係する管理者(道路や河川など)との協議を円滑にしたい。
- ・当センターが実施する技術研修について、質問や要望をしたい。
- ・施工可能で経済的な設計成果かどうか精査したい。
- ・適切に現場を管理したい。



※県・市町限定ページへアクセスするためのID・パスワードは平成26年7月4日付事務連絡参照を参照してください。

### 例えば以下のような疑問点など

- ・積算の考え方や事例などが知りたい。
- ・山口県土木積算システムについて知りたい。

## 編集後記

クリスマスイルミネーションが目を楽ませしてくれる季節となりました。唐突ですが、シャツのボタンは上から留めますか？下から留めますか？また、それはなぜでしょうか？学生時代に友人から同様の質問をされました。私は「特に意味はないが、習慣で上から留める。」と答えました。友人曰く、「下から留めるとボタンが見えるから、かけ間違え防止になる」というようなことを言っていました。その友人には当時小さなお子さんがいるきょうだいがいて、帰省した際に子供をどういう風にしつけるべきかというようなことを聞いてきたようでした。なるほど身の回りに着目すると、それがためかは分かりませんが、作業着のチャックは下から留める構造になっています。

業務を進めるうえで、よくわからない精神論でやり込められたと感じたことはないでしょうか。理屈で説明できない事柄もあるでしょうが、時間を経て振り返る時には、自分なりにその意味に納得したいものです。研修等で人前で話すことが多い筆者は、いざ伝えようとしたときに、精神論で学んだままにしている事柄をうまく伝えられずに苦悩する日々です。誰かが言った言葉をスピーカー的に拡散するのではなく、その言葉に命を吹き込まなければならぬ。当たり前のことですが、人前で話すことに慣れてきた今こそそれが大事だと痛感しております。

【Eメールアドレス】 [info@yama-ctc.or.jp](mailto:info@yama-ctc.or.jp)  
 【ホームページアドレス】 <http://www.yama-ctc.or.jp>

〒753-0073 山口市春日町8-3春日山庁舎  
 一般財団法人 山口県建設技術センター  
 情報誌編集委員会 宛  
 【TEL】083-920-1233 【FAX】083-920-1288